

研究課題：上井久義映像資料の整理公開

ポジフィルムのスキャニングは 主に35ミリポジフィルム（スライド）を北海道138枚、神奈川37枚、富山41枚、石川118枚、長野390枚、愛知161枚、三重242枚、滋賀299枚、大阪315枚、兵庫689枚、奈良168枚、島根245枚、岡山48枚、山口180枚、鹿児島214枚、沖縄500枚の計3785枚のスキャンが終了した。

すでにスキャン済みのネガフィルムもあり、総数は7000枚を下らないと思われる。

それらは独自番号を振り、エクセルで管理するようにした。さらにホームページでの公開方法について、技術担当者と協議を重ね。単なる写真集ではなく、上井久義の研究をより理解できるような方法を模索し、論文と紐づける方法にした。さらに、国立民族学博物館や歴史民俗学博物館のホームページ、さらには大英博物館のデータベースなどを参考にし、地域ごと項目ごとでも検索できるように工夫した。それらを考慮して、ホームページを立ち上げ、スキャニングした写真の一部を公開した。

<http://www.human.kobegakuin.ac.jp/~dara/>

ホームページでは、上井久義氏の論文と写真とを紐付け、論文に引用されている写真がすぐに閲覧できるように工夫し、また、引用されていないが同じ行事、同じ民俗の映像資料も確認できるようになっている。

祭礼に関しては既に行われなくなっているものや、形態の変化したものが確認され、今後の活用が期待される。

それぞれの映像資料は、県ごとに分類され祭礼や民俗資料を見られるようにしている。ただ、スキャニングしたもの全てではなく、まだ一部である。

また、公開する上での個人情報の扱いなどに留意すべき点があることも新たな課題となった。

今年度はスキャニングとホームページの立ち上げが遅れたため、資料公開による十分な反応が得られなかったが、すでに写真に関して数件の問い合わせ、また公開されている写真のコメントに関してもいくつかの指摘が来ており、これら資料を公開することの意義と重要性が垣間見られた。

また、写真整理の段階で、日本民家集落博物館の移築時や移築前の資料が見つかり、フィルムの一部は日本民家集落博物館に寄贈することができこうした、フィルムの最終保管場所についても課題が明らかになった。